

2015 年度日本活断層学会 学会賞

受賞者： 中田 高

授賞理由：

中田 高会員は、1960 年代以降半世紀の長きにわたり日本および世界の活断層研究をけん引し続けてきた。同氏の研究対象は日本のみならずヒマラヤ前縁帯、フィリピン諸島などアジアの新期変動帯全体におよび、また大地震発生の時間予測モデル、断層破壊過程と活断層の形態の関係、独創的な調査手法であるジオスライサーの開発、海溝型地震に対する変動地形学の適用、など豪快ともいえる豊かな発想で、活断層に関連する分野において常に先駆的で画期的な研究成果を挙げ続けてきた。とくにわが国における地震発生の長期予測を支える重要な活断層データベースづくりを牽引された点は、万人が知るところであり、日本の活断層研究の第一人者として国際的に高く評価されている。

こうした氏の幅広い興味対象と高い見識、誰とも分け隔てなくかつ暖かく接する人柄は、後進の心をひきつけ、多くの学生を一流の技術者・研究者に育てあげてきた。学会活動においては日本活断層学会第三代会長や日本地理学会評議員を務め主導的役割を果たしてきた。また、アカデミズムの世界にとどまらず、同氏は、活断層関連分野の高い見識を生かし、地震調査研究推進本部の地震調査委員会活断層分科会主査や内閣府原子力安全委員会専門委員等を歴任し、地震防災や活断層近傍の土地利用のありかた、原子力耐震基準の見直しなど様々な社会的課題に関しても繰り返し積極的発言や重要な提言を行ってきた。

こうした同氏の生き方と功績は、活断層に関わる技術者・研究者の範と言える。活断層に関連するあらゆる領域での成し遂げられたパイオニアとしての功績を讃え、今後も同氏がさらに活躍されることを期待して、中田 高会員に日本活断層学会学会賞を授与する。